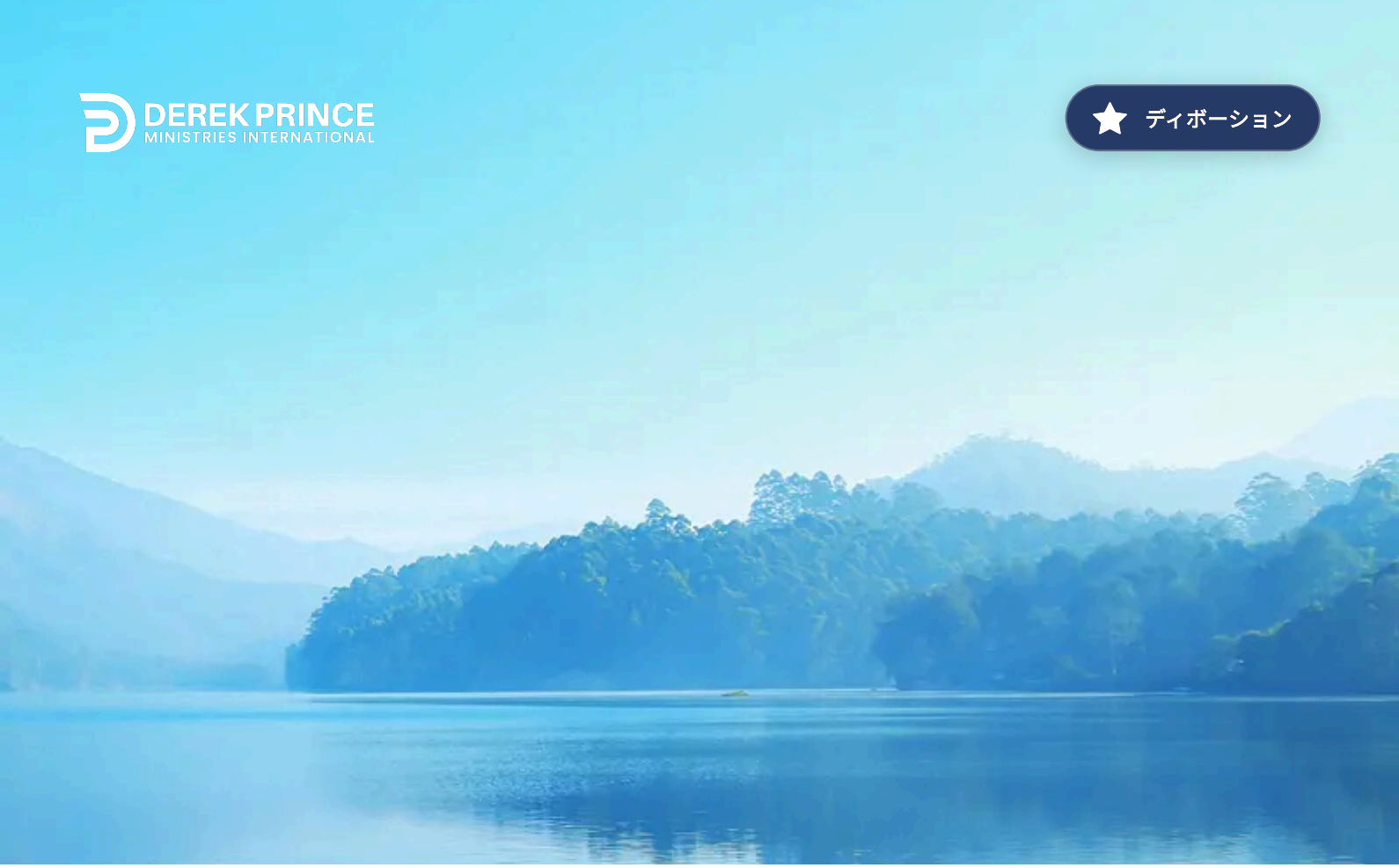


四つの条件



日 1970/365
Declaring God's Word
著者 デレク・プリンス

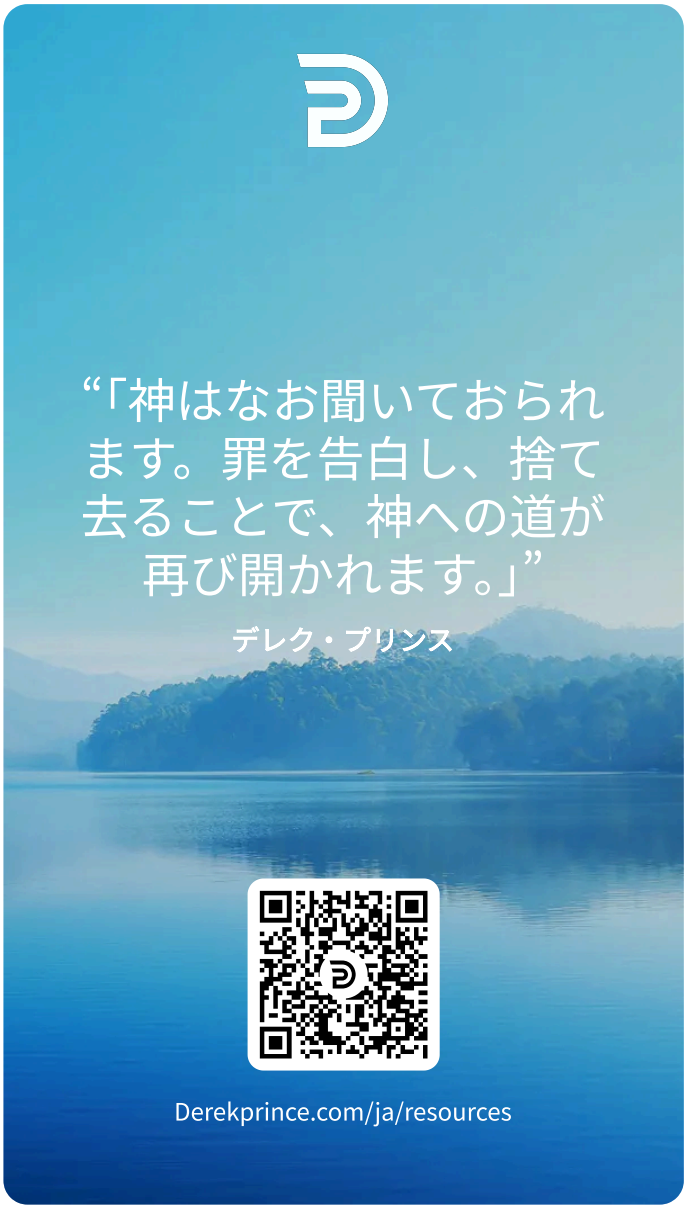
ヘブル人への手紙１０章２２節によると、至聖所の宥めの蓋と御座に近づくためには、四つの条件があります。一つ目は、「真心」で、二つ目は「全き信仰」、三つ目は「心に血が振りかけられて、邪悪な良心をきよめられ」ていること、そして四つ目は、「きよい水で洗われて」いることです。（順序は英語訳に合わせています。）これらを一つずつ簡単に見ていきましょう。真心：知性によってではなく、心から神に近づきます。神は知的な難問の答えなのではありません。しかし、真心から願う思いに応えてくださる方です。見せかけや自己誇示することなく、何も隠さず、ありのまま神に近づかなければなりません。全き信仰：ヘブル人への手紙１１章６節は、

> 「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は…信じなければならないのです」

と言っています。自分の能力や義による信仰ではなく、神の忠実さに対する絶対的な信仰をもって近づかなければなりません。心に血が振りかけられて、邪悪な良心をきよめられ：邪悪な良心は、間違ったことや罪深い行いに関わることによって生じます。しかし、イエスの血が振りかけられることによって、私たちの邪悪な行いは赦され、私たちの心は罪からきよめられることが保証されています。きよい水で洗われ：ヨハネの手紙第一５章６節は、イエスは水と血によって来られたと言っています。ヘブル人への手紙１０章２２節では、その両方の要素が見られます。邪悪な良心に振りかけられる血と、からだを洗う水です。その水は、クリスチャンの水のバプテスマであると私は考えます。新約聖書では、クリスチャンのバプテスマは、イエス・キリストの死と埋葬、復活にあずかることを意味しています。ですから、ヘブル人への手紙１０章２０節で言われている「新しい生きた道」とは、イエスのことです。私たちは、イエスが私たちの罪のために死なれ、よみがえられた時に耐え忍んだすべてのことに、自分を重ね合わせていくのです。

© 2008 - デレク・プリンス・ミニストリーズ・インターナショナル・インク

ディボーション ★
原稿: WD-B097-318-JPN
最終更新日: 04 Oct 2026
ウェブサイト: Derekprince.com/ja/resources



© 2008 - デレク・プリンス・ミニストリーズ・インターナショナル・インク